

地方部におけるモビリティミックスの提案
—京丹後版 MaaS の実現に向けて—

堀 正樹

私たちの生活は、通勤・通学をはじめ、買い物や通院など、さまざまな場所へ移動することによって成り立っている。こうした日常生活における移動に必要不可欠であるのが、鉄道や路線バスをはじめとした地域公共交通および自家用車である。

現在の日本では、人口減少や少子高齢化の進展により、地域公共交通の利用者は減少の一途をたどっている。特に地方部においては、交通事業者の経営悪化による路線廃止や減便は日常茶飯事であり、こうした状況がさらなる公共交通離れを引き起こし、自家用車の交通分担率が上昇するという悪循環を形成する大きな要因となっている。しかし、自家用車が普及している地方部であっても、高校生や障害者、運転免許を返納した高齢者など、地域公共交通を必要とする人々がいる。高齢者による交通事故の増加が社会問題化している等の背景もあって、今後も地域公共交通の重要性は高まっていくと予想される。

そこで本稿では、鉄道やバスなどの地域公共交通に自家用車を組み合わせた「モビリティミックス」の1つとして「京丹後版 MaaS」の導入を提言している。京都府京丹後市は、地域公共交通として、鉄道・路線バスに加え、自家用有償旅客運送およびデジタルを活用した新たなモビリティサービスが導入されている先進的な地域である一方、人口減少をはじめとした地方部としての課題を抱えている。現地でのフィールドワークや市の交通政策担当者へのインタビュー調査等を行った上で、多様な輸送資源の総動員および新たなモビリティサービスの導入やデジタル化によって地域公共交通のリ・デザインを行うという2020年代の地域公共交通政策のトレンドを踏まえ、それらの連携・協働を進めるための方策としてサブスクリプションの導入を提案している。

ⁱ 大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科・地域政策学コース・学生